

2012年夏休み(7月15日～8月31日)の旅行動向

夏の旅行意欲旺盛 国内・海外とも過去最高*

国内旅行 7,431 万人 (前年比 +2.3%)

海外旅行 272 万人 (同 +4.6%) とともに 2000 年以降過去最高

国内旅行は、新名所がオープンした東京など、東日本が人気

海外旅行は、円高や航空座席の供給量増加により渡航者が増加

*調査比較できる 2000 年以降

JTB は、「夏休み(7月15日～8月31日)に、1泊以上の旅行に出かける人」の旅行動向の見通しをまとめた。

この調査は、航空会社の予約状況、1,200 人から回答を得た旅行動向アンケート、JTB グループの販売状況、業界動向から推計したもの。1969年に調査を開始して以来、今年で44回目となる。

調査結果は以下のとおり。

(表1) 2012年夏休みの旅行動向数値

	2012年夏休み			2011年夏休み	
	推計値	前年比	前年増減	実績推計	前年比
総 旅 行 人 数	7,703万人	+2.4%	+ 179万人	7,524万人	1.9%
国内旅行人数	7,431万人	+2.3%	+ 167万人	7,264万人	2.2%
海外旅行人数	272万人	+4.6%	+ 12万人	260万人	+7.4%
国内旅行平均費用	34,160円	2.7%	+ 900円	33,260円	6.3%
海外旅行平均費用	236,500円	+4.0%	+ 9,200円	227,300円	+2.3%
総 旅 行 消 費 額	3兆1,817億円	+5.8%	+ 1,747億円	3兆0,070億円	5.3%
国内旅行消費額	2兆5,384億円	+5.1%	+ 1,224億円	2兆4,160億円	8.4%
海外旅行消費額	6,433億円	+8.8%	+ 523億円	5,910億円	+10.0%

* 旅行人数は、延べ人数数値。平均費用は一人1回あたりの費用

* 国内旅行人数は宿泊を伴う旅行者の人数(観光および帰省目的の旅行に限る)

海外旅行人数は出国者数(業務目的の旅行を含む)

* 国内旅行平均費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む

* 海外旅行平均費用は、燃油サーチャージ含む。旅行先での土産代等の現地支払費用は除く

< 2012年夏休み(7月15日～8月31日)の旅行の特徴 > ()内の数値は前年比

今年の夏休みは国内旅行、海外旅行ともに過去最高

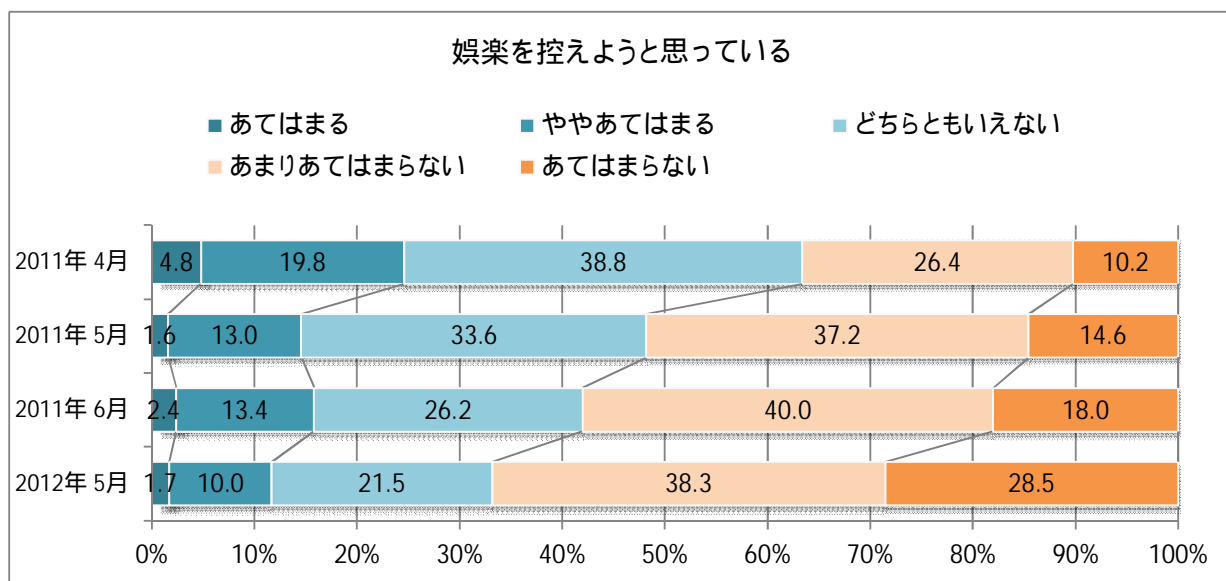
昨年、東日本大震災の影響により夏の国内旅行者数は大きく減少したが、復興とともに回復し、2012年の夏は震災の影響をほとんど受けないと言える。消費者の旅行意欲は高く、円高も追い風となり、国内旅行、海外旅行とも大きな伸長が期待できる。

2012年夏の国内旅行者数は7,431万人(前年比+2.3%)となり、調査対象期間を7月15日～8月31日に変更した2000年以降、最高の旅行者数になると予測する。

海外旅行の旅行者数は272万人(前年比+4.6%)で、2001年夏の266万人を抜いて過去最高となる見込み。

図1は、2011年4月から4回にわたり当社グループで実施した、娯楽・レジャーに関わる消費意向についてのアンケートの結果である。震災直後の娯楽を控えようという気持ちが徐々に減少し、1年後の2012年5月のアンケートでは、娯楽を控えることについて、約7割が「あてはまらない」「あまりあてはまらない」と回答している。娯楽・レジャーに対する意欲は高まりつつある。

図1 娯楽・レジャー消費に対する意識の変化

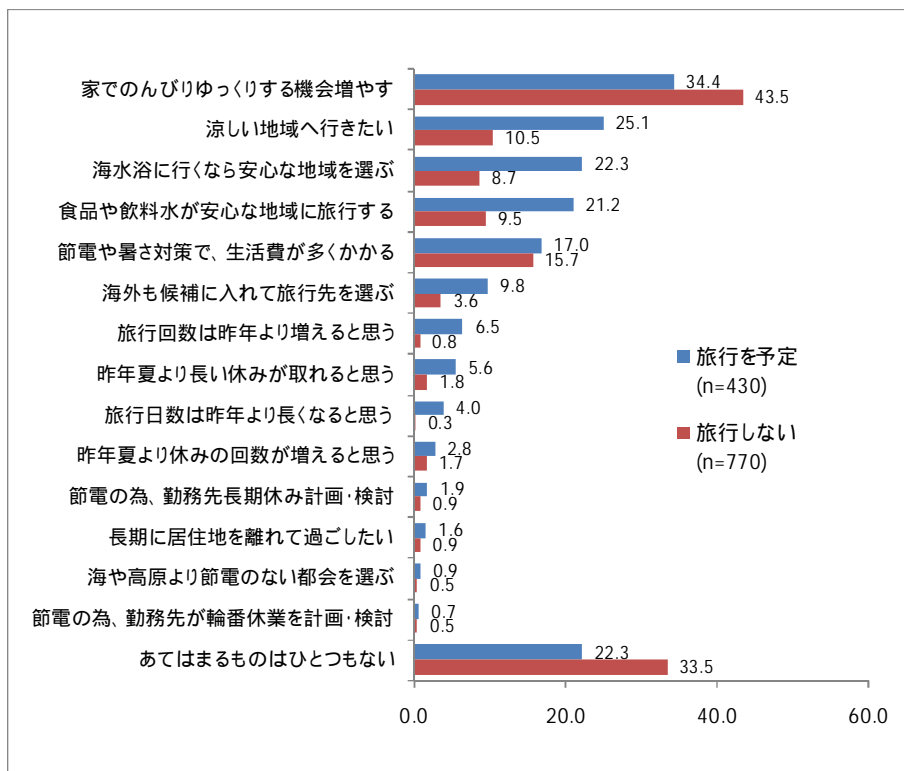


ツーリズム・マーケティング研究所(現JT B総合研究所)「東日本大震災が消費・旅行に与える影響」より

「今年の夏の生活や旅行についての意識」において、旅行を予定している人と旅行をしない人での意識の違いを比較した結果が、図2である。いずれも「家でのおんびりゆっくりする機会を増やす」人が最も多く、また節電や暑さ対策を心配する傾向が見られる。旅行を予定している人の25%が「涼しい地域へ行きたい」と答え、旅行しない人との意識の差が大きい。また、旅行を予定している人のうち22.3%が「海水浴に行くなら安心な地域を選ぶ」、21.2%が「食品や飲料水が安心な地域に旅行する」と回答し、旅行意欲は増しているものの、東日本大震災の経験を機に「安心」や「安全」を意識していることが伺える。

また、昨夏は節電や原発事故の影響に加え、九州新幹線の全線開通などの追い風もあり、関西以西の旅行先に人気が集まったが、今年は、東京スカイツリーの開業など、新名所が次々とオープンした東京が脚光を浴びている。一方、東北方面は現地を訪問することにより震災復興を応援するという気運が依然として高く、夏祭りや世界遺産の平泉などが人気を集めている。

図2 今年の夏の生活や旅行についての意識



ロンドン五輪開催の年だが、旅行消費への意向は強い

今夏は 7月27日～8月12日までロンドン五輪が開催される。過去の五輪開催年は、自宅観戦のためのテレビ買い替え需要が高まり、旅行消費が影響を受けると言われてきたが、地デジ化による買い替えが終了したこともあり、今年は旅行の予約は早い段階から伸びており、影響はほとんど見られない。

アンケートの「今後の旅行支出に対する意向」にも、「旅行の支出を増やしたい」が16.4%（前年同期比+2.2）、「同程度」が53.9%（同+0.8）と旅行消費への意向は強いといえる（表2）。

（表2）今後の旅行支出に対する意向の変化（調査月ベース）

単位%（ ）は前回との差

	今回(2012年6月)	前回(2011年6月)	前々回(2010年6月)	
支出を増やしたい	16.4 (+2.2)	14.2 (+0.3)	13.9 (+3.6)	
同程度	回数を増やし単価を減らしたい	12.2 (0.3)	12.5 (0.8)	13.3 (1.5)
	回数を減らし単価を増やしたい	4.4 (1.4)	5.8 (+0.0)	5.8 (0.7)
	回数も単価も同程度	37.3 (+2.5)	34.8 (1.0)	35.8 (+4.5)
支出を減らしたい	26.9 (3.3)	30.2 (+1.5)	28.7 (4.1)	

国内旅行 旅行日数は1泊2日が減少、2泊3日および4泊以上が増加へ

アンケートでは、回答者の旅行日数は平均で 2.35 日。前年と比較すると 0.017 日増加した。昨年は 1 泊 2 日と 6 泊以上が多く、二極化傾向がみられたが、今年は 1 泊 2 日が減少し、2 泊 3 日および 4 泊以上が増加している。節電をきっかけに注目された長期滞在旅行は、昨年の関東地域に続き、今年は関西地域などにも広がり、新しい旅行スタイルとして認知されつつある。

(表3)夏の国内旅行日数 単位:%

	%	昨年差
1泊2日	38.4	2.7
2泊3日	33.0	3.4
3泊4日	12.3	3.7
4泊5日	4.4	1.0
5泊6日	5.1	2.6
6泊7日	0.7	0.2
7泊8日	2.6	0.3
8泊以上	2.9	0.9

旅行回数も「2回以上」の回答者が増加

表4は本調査における今年の夏の旅行回数の意向の推移を示したものである。2012年夏は2回が18.8%(前年15.1%)、3回が3.5%(同1.6%)、4回以上が1.9%(同0.7%)と2回以上の旅行回数が大きく増加している。

(表4)今年の夏の旅行回数(意向)と前年の旅行回数(実績) 単位:%

	2012年	2011年	2010年	2009年	2008年
1回	75.6	82.4	75.4	77.4	80.7
2回	18.8	15.1	20.7	18.9	17.3
3回	3.5	1.6	3.1	2.2	1.2
4回以上	1.9	0.7	0.7	1.2	0.7
無回答	0.2	0.2	0.2	0.2	-
平均回数(回)	1.315	1.204	1.289	1.271	1.220

< 国内旅行の特徴 >

東京に脚光 新名所が次々と開業

今年は、東京スカイツリーの開業や東京ディズニーリゾートの新アトラクション導入をはじめ、お台場のダイバーシティ東京、渋谷ヒカリエといった新名所が次々と開業している。関西以西の節電影響もあり、名古屋や大阪からの東京・横浜方面への人気が高い。特に東京スカイツリー周辺地区およびアクセスの良い地区(千代田区、墨田区、台東区)、またお台場地区の宿泊ニーズが高い。

東北の夏祭り、世界遺産・平泉の人气が観光のはずみに

復興キャンペーン「東北観光博」が展開されている東北は、夏祭りや世界文化遺産に登録された平泉を中心に復調しつつある。東北4大祭りの「青森ねぶた祭り」「秋田竿燈まつり」「仙台七夕まつり」「山形花笠まつり」や「大曲の花火」など、東北各地で開催される夏祭り・花火大会へ多くの人出が予想される。

避暑需要で引き続き信州が人気、九州は新幹線効果が今年も継続

昨年は涼さを求めて首都圏から信州方面への旅行が人気を集めたが、今年も信州人気は続いており、関西・中京方面からの旅行申込も増えている。また、昨年九州新幹線の全線開通で旅行者が大きく増加した九州では、観光地の魅力に加えJR九州の個性あふれる列車も魅力となって、多くの旅行者を惹きつけている。

国内線LCC就航

3月に就航したピーチ・アビエーションに加え、7月よりジェットスター・ジャパン、8月にエアアジア・ジャパンが成田、関西空港を拠点に国内線を就航させる。LCCの利用によりこれまであまり飛行機を利用しなかった層の旅行も増えると見られる。また移動費用が抑えられることで、旅先で少し贅沢をしたり旅行回数を増やしたりするなど、新たな旅行需要につながることも期待される。

出発ピークは8月11日～13日

国内旅行の出発ピークは、東日本発が8月11日(土)、12日(日)、西日本発が12日(日)、13日(月)と見込まれる。

< 海外旅行の特徴 >

ハワイ、グアム・サイパンが人気

今年の夏の旅行はハワイ、グアム・サイパンが人気。近場の韓国、台湾を中心にアジア方面も引き続き人気が高い。東南アジアでは、マリーナベイサンズが注目されたシンガポールの人気が高く、タイへの訪問者も堅調に伸びると見込まれる。欧州も好調で、ロンドン五輪のツアーが注目を集めているほか、フランスやイタリア方面が人気となっている。

座席供給量が増加し、旅行に行きやすい環境

昨年は震災の影響で、航空便の減便や機材の小型化により座席供給量が減少していたが、今年は路線の増加や機材が大型化されるなど、首都圏・関西を中心に座席供給量が大幅に増えている。また地方空港では、韓国線の増加やオープンスカイによる台湾線の新規就航など東アジア路線を中心に増えており、海外旅行に行きやすい環境が整っている。

チャーター便利用の商品が人気

夏の需要期に向けたチャーター便利用の商品が増えている。ハワイ・グアムなど人気方面へのチャーター便のほか、夏がベストシーズンになるヨーロッパ方面やアラスカ方面へのチャーター便も多く設定されている。また地方空港からはスペインやクロアチアなど定期直行便がない地域へのツアーが組まれるなど、利便性の高さから人気を集めている。

為替レートは引き続き円高 燃油サーチャージは若干減額

ヨーロッパ危機の影響もありユーロが2011年に比べ17.55円円高となるなど(表5) 為替レートは引き続き円高で推移しており、旅行者にとってメリットを享受できる状況にある。燃油サーチャージは昨年に比べ減額となっており、8月発券分では、ハワイで1人往復30,000円、欧州では往復47,000円となる。

(表5) 各年6月末現在の各国通貨レート (単位:円)

	12年	11年	10年	09年	08年
米ドル	80.31	82.02	90.32	97.01	107.42
ユーロ	100.24	117.79	112.17	137.03	169.57
英ポンド	127.12	133.54	138.55	163.54	216.35
韓国ウォン	7.08	7.72	7.66	7.71	10.39
中国元	12.95	12.92	13.17	14.01	15.58

資料: 東京外国為替相場/T.T.Selling (三菱東京UFJ銀行調べ)

(表6) 8月発券分の燃油サーチャージ額の推移 (日本航空の場合、往復、単位:円)

	12年	11年	10年	09年	08年
韓国	4,400	6,000	1,000	0	7,000
中国	9,000	9,000	5,000	0	17,000
香港	12,000	17,000	5,000	0	21,000
台湾	12,000	17,000	5,000	0	21,000
グアム・サイパン	14,000	19,000	6,000	0	21,000
タイ・シンガポール・マレーシア	23,000	31,000	9,000	0	40,000
ハワイ・インドネシア	30,000	37,000	12,000	0	40,000
米国・欧州・中東・オセアニア	47,000	58,000	21,000	0	56,000

出発ピークは8月11日～12日

JTBの企画商品の予約状況によると、欧州やハワイは8/11(土)、アジアは8/12(日)の出発が多い。アジアを中心に8/15(水)や旧盆明けの8/17(金)～8/19(日)に出発する人も多くみられ、また、料金帯の安い時期を狙って出発時期をずらす動きも年々定着してきている。

<調査方法>

調査地点: 全国200地点

調査実施期間: 2012年6月6日～18日

調査対象: 全国15歳以上79歳までの男女個人

サンプル数: 1,200名(1地点6名×200地点)

調査内容: 2012年7月15日から8月31日に実施する1泊以上の旅行

調査方法: 専属調査員による個別訪問調査(100%回収)

(表7) 2012年夏休み(7/15~8/31)海外旅行人数推計 (単位:万人)

	2012年	前年比	2011年	前年比
総数	272	+4.8%	260	+7.3%
アジア合計	160.0	+5.4%	151.8	+9.6%
中国	43.8	+2.3%	42.8	+6.2%
韓国	46.3	+6.2%	43.6	+14.4%
台湾	15.4	+7.7%	14.3	+9.2%
香港	11.2	+3.7%	10.8	+5.9%
タイ	11.0	+7.8%	10.2	+3.0%
シンガポール	7.0	+12.9%	6.2	+19.2%
インドネシア	4.9	+2.1%	4.8	21.3%
マレーシア	4.3	+4.9%	4.1	+7.9%
(その他)	16.1	+7.3%	15.0	+27.1%
北米州合計	60.9	+4.3%	58.4	+5.2%
ハワイ	19.9	+5.3%	18.9	+9.9%
グアム・サイパン	15.8	+6.8%	14.8	4.5%
米国本土	22.0	+2.3%	21.5	+9.7%
カナダ	3.2	+0.0%	3.2	+0.0%
欧州合計	37.5	+3.6%	36.2	+5.5%
大洋州合計	9.4	+2.2%	9.2	2.1%
オーストラリア	5.7	1.7%	5.8	6.5%
ニュージーランド	1.0	+25.0%	0.8	20.0%
南太平洋	2.7	+3.8%	2.6	+18.2%
その他 (アフリカ・中南米等)	4.2	+5.0%	4.0	7.0%

*各国政府・観光局発表の日本人入国者数ならびに法務省統計から推計

(表8)利用宿泊施設(海外旅行を除く)

(複数回答)

	%	昨年差
ホテル	36.3	2.3
旅館	23.0	1.6
実家・知人宅	29.3	2.4
民宿・ペンション	14.7	3.4
その他	4.0	3.2

(表9)利用交通機関(海外旅行を除く)

(複数回答)

	%	昨年差
乗用車	64.6	4.9
*鉄道	26.8	3.1
JR新幹線	17.2	1.6
JR在来線・私鉄	16.0	2.2
飛行機	17.2	0.3
長距離バス・貸切バス	8.6	2.7
フェリー・船舶	3.5	1.5
その他	0.2	0.9

* 鉄道は重複回答者を除いてカウント

(表10)同行者

(単一回答)

	%	昨年差
家族づれ	66.2	5.6
子供づれ(中学生まで)	33.1	2.3
夫婦のみ	17.1	1.7
三世代	6.0	2.6
それ以外(母と娘など)	10.0	1.0
家族と友人・知人	7.7	3.2
友人・知人	14.9	0.7
団体(職場・地域など)	1.6	0.0
ひとり	6.7	1.3

(表11)国内旅行先

(単一回答)

	%	昨年差
北海道	6.7	0.8
東北	10.7	1.9
関東	19.8	1.7
甲信越	11.9	3.5
北陸	4.0	0.8
東海	9.4	2.1
近畿	9.5	1.3
中国・四国	8.1	2.3
九州	10.0	2.2
沖縄	3.0	0.8

(表12) 旅行目的

(複数回答)

	%	昨年差
帰省、離れて住む家族と過ごす	21.9	0.0
温泉でゆっくりする	14.9	0.9
自然や風景を楽しむ	13.3	1.3
家族や友人との親睦	8.8	2.5
テーマパーク・レジャー施設	7.9	2.9
海辺で保養・海水浴	7.4	1.8
史跡や名所を見る	4.9	0.1
ハイキング・登山・キャンプ等	4.4	0.1
観劇・イベント参加・スポーツ観戦	3.3	0.8
おいしいものを味わう	3.0	0.6
高原で保養・避暑	2.6	0.6
都会・都市で過ごす	1.4	--
リゾートでエステやスパ	0.7	0.2
クラブやサークルの旅行や行事	0.5	0.2
その他	4.0	0.6

(表13) 旅行日数 国内のみ

(単一回答)

	%	昨年差
1泊2日	38.4	2.7
2泊3日	33.0	3.4
3泊4日	12.3	3.7
4泊5日	4.4	1.0
5泊6日	5.1	2.6
6泊7日	0.7	0.2
7泊8日	2.6	0.3
8泊以上	2.9	0.9

(表14) 旅行に行かない理由

(複数回答)

	%	昨年差
休暇が取れない	29.9	1.3
特に旅行したいとは思わない	25.2	--
暑い時期に旅行したくない	22.3	7.7
家計の制約	16.9	4.4
他の時期に旅行	16.4	3.8
家の事情で離れられない	15.6	0.2
混雑する時期に旅行したくない	14.4	5.1
景気が悪い	13.4	4.2
家族等と休日が重ならず	10.1	3.5
夏は値段が割高だから	6.8	0.3
旅行以外にやりたいことがある	5.6	3.8
家にいた方が楽しみが多い	4.9	2.3
希望する予約が取れない	1.3	0.5
放射能の影響が心配	0.8	2.4
節電で通常サービスが受けられない	0.6	1.3

(表15) 今後の旅行支出に対する意向の変化 (調査月ベース)

単位% ()は前回との差

		今回(2012年6月)	前回(2011年6月)	前々回(2010年6月)
支出を増やしたい		16.4 (+2.2)	14.2 (+0.3)	13.9 (+3.6)
同 程 度	回数を増やし単価を減らしたい	12.2 (0.3)	12.5 (0.8)	13.3 (1.5)
	回数を減らし単価を増やしたい	4.4 (1.4)	5.8 (+0.0)	5.8 (0.7)
	回数も単価も同程度	37.3 (+2.5)	34.8 (1.0)	35.8 (+4.5)
支出を減らしたい		26.9 (3.3)	30.2 (+1.5)	28.7 (4.1)

(表 16)夏休みの旅行動向発表数値の推移

	旅行人数(万人)			旅行平均費用(円)		総消費額
	総数	国内旅行	海外旅行	国内旅行	海外旅行	(億円)
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
2000	7,423	7,159	264	35,832	206,065	31,094
(期間変更)						
2001	7,562	7,296	266	35,115	210,149	31,210
	1.9%	1.9%	0.8%	2.0%	2.0%	0.4%
2002	7,612	7,369	243	33,654	213,091	29,978
	0.7%	1.0%	8.6%	4.2%	1.4%	3.9%
2003	7,535	7,347	188	33,923	222,893	29,113
	1.0%	0.3%	22.6%	0.8%	4.6%	2.9%
2004	7,490	7,242	248	34,975	208,851	30,509
	0.6%	1.4%	31.9%	3.1%	6.3%	4.8%
2005	7,604	7,365	239	35,300	214,600	31,128
	1.5%	1.7%	3.6%	0.9%	2.8%	2.0%
2006	7,657	7,410	247	35,716	223,100	31,977
	0.7%	0.6%	3.3%	1.2%	4.0%	2.7%
2007	7,662	7,420	242	36,200	232,000	32,474
	0.1%	0.1%	2.0%	1.4%	4.0%	1.6%
2008	7,571	7,348	224	35,800	249,000	31,884
	1.2%	1.0%	7.4%	1.1%	7.3%	1.8%
2009	7,353	7,128	225	34,300	212,300	29,225
	2.9%	3.0%	0.4%	4.2%	14.7%	8.3%
2010	7,669	7,427	242	35,500	222,100	31,741
	4.3%	4.2%	7.6%	3.5%	4.6%	8.6%
2011	7,524	7,264	260	33,260	227,300	30,070
	1.9%	2.2%	7.4%	6.3%	2.3%	5.3%
2012	7,703	7,431	272	34,160	236,500	31,817
	2.4%	2.3%	4.6%	2.7%	4.0%	5.8%

< 報道関係の方からのお問い合わせ先 >

JTB 広報室 03 - 5796 - 5833